

あなたと博物館



HIRATSUKA CITY MUSEUM

'91 5月号

来年4月から

1階常設の展示が新しく生まれかわります

※平成3年度予算で1階常設展示を一部展示替することが決定しました。(開館以来、3度目)

・来年1月～3月まで工事期間(そのため博物館は、休館になります。)

・来年4月に新しい展示で開館

今回の展示では、静的な展示から動きのある展示にするため、コンピューター制御によるビデオ等の映像情報機器等を導入したり、立体的なジオラマによって臨場感あふれたコーナーも設置したいと考えています。

※展示内容を簡単にご紹介すると・・・。

1. 相模川を歩く

このコーナーは、長さが、15メートルの相模川を復元し、源流から河口までの川辺を観覧者が散策しながら、さまざまな情報を得られるようにしたものです。

2. 川原は生きている

初夏の川原を復元し、アジサシを中心とした川原の生態を効果音を通して再現します。

3. アユの川

アユの産卵状況やアユとコサギを中心とした鳥たちの生活を紹介します。

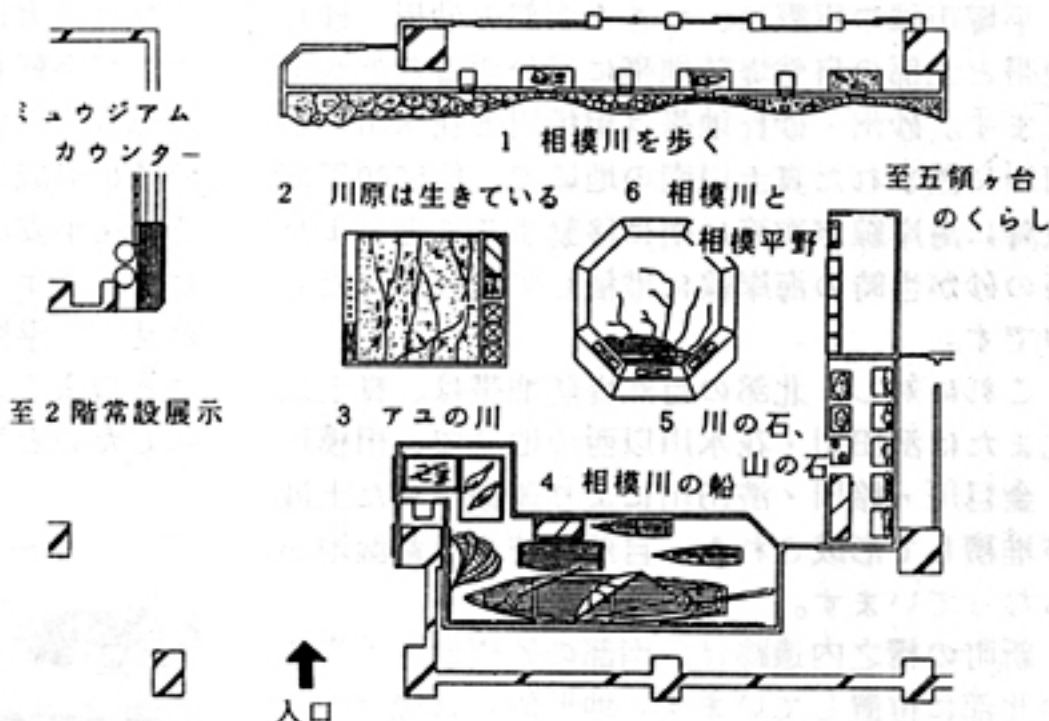
4. 相模川の舟

アユ漁など川と人間のくらしのかかわりを漁具や舟模型などで紹介します。

5. 川の石、山の石

川原の石を使った出土石器、また山の石による石像物の実物とレプリカ、山の露頭や石切場などの様子を紹介する

『1階部分についての展示替計画』



6. 相模川と相模平野

25000分の1の地模型によって流域の地形を紹介すると同時に、市内の微地形を立体的に表現します。

3階天文展示の「星の広場」

天文に関する情報提供を充実し、隕石の重量感を体験するコーナーも新しく設けます。

相模平野のおいたちを探る－遺跡発掘現場の地層から－

●平塚の遺跡

平塚市域では数多くの場所が遺物分布地として埋蔵文化財の遺跡台帳に記載されており、住宅などの建設に関連して、数多くの発掘調査がなされています。その数は1年間に30箇所以上に及びます。平野の地下については、直接見る機会はきわめて限られており、遺跡の発掘調査はそのよいチャンスでもあります。昨年暮れから3月にかけて行われた構之内遺跡（新町三共工場内）では、相模平野の表層の地質をよく観察することができました。ここではこの遺跡発掘現場の地層から、どんなことがわかったのか紹介してみましょう。

●構之内遺跡の立地

平塚市域の平野は、大きく南部の砂州・砂丘地帯と北部の自然堤防地帯に二分することができます。砂州・砂丘地帯は相模川と花水川・渋田川に囲まれた真土以南の地域で、約5000年前以降に海岸線が次第に南に移動することにより海の砂が当時の海岸線に堆積して形成されたものです。

これに対し、北部の自然堤防地帯は、真土以北または渋田川・花水川以西の地域で、相模川・金目川・鈴川・渋田川により運搬された土砂が堆積して形成された、自然堤防や後背湿地からなっています。

新町の構之内遺跡は、南部の砂州砂丘地帯の中北部に位置しています。地形的には標高10mほどの砂州列が東西方向に2列分布しています。その砂州列の間には、標高8m以下の、幅100m程の低地が東西に続いています。

遺跡発掘調査の結果、地形的に高い砂州列上には平安時代以降の住居址が数多く確認され、地形的に低い砂州列間の低地（凹地）には水田農耕に関連する溝状の遺構が多数認められました。従って、古代から人々は地形の起伏をうまく利用して生活してきたわけです。

●遺跡内の地層

この発掘現場では砂州から凹地にかけての連続した地層断面を観察することができ、いつ頃砂州や凹地が形成されたのについてのヒントを得ることができました。凹地には厚さ1m以上の腐食質な泥層が堆積しており、その下部に富士火山起源の火山灰層（スコリア層）が4枚含まれていました。富士山の火山活動との関係から、この泥層は約2500～1500年前頃にかけて堆積したものと考えられます。

また、砂州を構成する粗粒砂の上部からは直径5cmにも達する、大粒のよく円磨された軽石が多量に見つかりました。この軽石は角閃石と紫蘇輝石という鉱物を含んでおり、天城火山のカワゴ平火口からの2800～2900年前に噴出したカワゴ平軽石である可能性があります。

そうだとすると、この遺跡内の砂州は約2800年前頃に形成され、その直後に形成された凹地はその後平安時代以降まで湿地として続いたこととなります。今後、遺構や遺物の年代を考えあわせて、平野がいつ頃形成され、古代人が平野にどのように進出してきたのかを探る手がかりにしたいと思います。



新町三共工場内の構之内遺跡

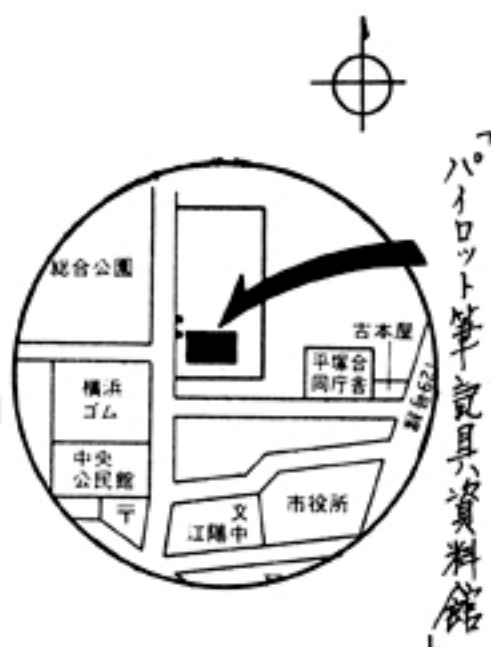
《郷土の博物館案内》

—まちの小さな資料館— 『パイロット 筆記具資料館』

総合公園の東にある「株式会社パイロット」の敷地内に「パイロット筆記具資料館」があります。会社創立五十周年記念事業として設立されたもので、5年前から一般公開されているそうです。「野球場ができたり、総合公園の施設が整ってくるにつれ、訪れる人も増えてきました。」という館の担当の方のお話でした。毎日の生活に欠かせない筆記用具。その生い立ちやこれまでのあゆみにふれてみては、いかがでしょう。



見学者に万年筆の説明をする野村さん



《利用の案内》

入場料：無料
開館時間：9時半～16時
休館日：土・日曜日
祝日（ゴールデンウィーク期間は全日休館）
夏休み（今年は、7/27～31
8/15～18）
年末・年始

《主な展示内容》

- ・文字の生まれるまで
- ・西洋筆記具のあゆみ
- ・製紙100年の旅
- ・ペンの歴史
- ・東洋筆記具のあゆみ
- ・万年筆の歴史
- ・「パイロット」のあゆみ
- ・万年筆の軸材料

『万年筆を観察してみると・・・』

ペン先にイリジウムという硬い金属がついてある。だから、たくさん字を書いてもすりへらない。



「切割線」という。ペン先へインクをやうどうする道。毛細管現象を利用している。



3本のみぞがささぎまわっていて、ここをインクが通る。そしてペン先にバトンタッチする。インクが通り、空気が抜け出るこのみぞの発明までは、長い長い道のりがあった。

「ペン先をはずれたインク送り用のペンレン」

参考資料 「万年筆と科学」（パイロット万年筆編集）

《行事案内》

5 月 の 行 事 予 定		
1 1	土	漂着物を拾う会※6時平塚海岸 古文書講読会 土曜観察会（新聞作りと映画） ナチュラリスト講座
1 2	日	石仏を調べる会
1 8	土	平塚の空襲と戦災を記録する会 天体観察会※月光天文台19日も
1 9	日	相模川の生い立ちを探る会 （逗子方面）
2 3	木	星を見る会「月と木星」
2 5	土	漂着物を拾う会※6時平塚海岸 古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会（湘南平）
2 6	日	相模川を歩く会（津久井町）
6 月 の 行 事 予 定		
1	土	ナチュラリスト講座
2	日	自然観察会 八丈島の山、秦野
4日～13日は、全館くん蒸のため休館		
8	土	漂着物を拾う会※6時平塚海岸
1 5	土	平塚の空襲と戦災を記録する会 土曜観察会
1 6	日	石仏を調べる会 相模川の生い立ちを探る会 （三浦方面）
2 0	木	星を見る会（西の空の3惑星）
2 2	土	漂着物を拾う会※6時平塚海岸 古文書講読会 石仏を調べる会
2 3	日	相模川を歩く会（川尻）
2 9	土	土曜観察会（まとめ）
5/3～6/2 寄贈品コーナー 「身近な生き物調査より」 6/15～7/30 “「新資料展」（自然部門） 5/11～7/14 プラネタリウム 「ボエジャーが見た海王星・天王星」 5/21～7/10 幼児投影期間（園児団体投影）		

●全館くん蒸（滅菌・害虫駆除）のための 休館のお知らせ

博物館資料をかびや虫から守るためのくん蒸を行います。そのため、次の期間を休館とさせていただきます。この間、館内へは、立ち入りできませんので、ご了承下さい。

期間：6月4日（火）～6月13日（木）

■星を見る会「月と木星」

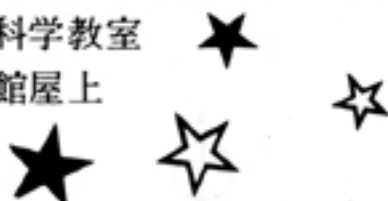
月と木星を望遠鏡で観察します。

日時：5月23日（木）午後7時～8時半

集合場所：1階科学教室

観察場所：博物館屋上

参加：自由



■ナチュラリスト講座「湘南のチョウ」

講師：岸 一弘氏（茅ヶ崎文化資料館）

日時：5月11日（土） 午後6時～8時

場所：博物館講堂

ナチュラリスト講座は、湘南の植生物について調査をされている方々からいろいろな話題を提供して頂く講座です。今年度は、計8回実施の予定です。なるべく続けて参加して頂きたいと思います。

■プラネタリウム

一般投影

「ボエジャーが見た天王星・海王星」

（5/11～7/14）

アメリカが1977年に打ち上げた惑星探査機ボエジャー2号が接近した天王星・海王星についての情報をお伝えします。

投影：土曜日14時、日曜日11時と14時

幼児投影

幼稚園・保育園の園児たちのための団体投影です。（5/21～7/10）申し込みは、博物館管理係まで。（TEL33-5111）

